

日本アイアイ・ファンド (NAF) 2019年度の活動報告



このアイアイを救おう！ (2019年12月7日撮影)

2019年12月にアンジアマンギラーナの森に入った日本人旅行者は、アイアイを見つけました。しかし、そのアイアイまだ2歳にならない子どもで、2018年はじめに研究者がつけたまま放置した発信器が、首をしめつけています。2020年に最初にやるべきことは、このアイアイを救うことです。



2019年12月には、焼かれてしまったマナサムディ山の斜面と2015、2016年度の植林地にも木を植えました。15ヘクタールもの焼け野原を緑の森に変える、少々気の遠くなる作業でした。

しかし、負けてはいられません。



世界一周中の山中鷹（よう）さんは、アンジアマンギラーナ村ファナンブタナ学園の敷地で、子どもたちにとりまかれてパイアの苗用の穴掘りをしました（12月7日）。



2019年度あらたに始まったパイア・カシュー植林地（森林監視員クラニの共同管理地）。かなたの川辺林のパナナ畑まで広がります。2種合計1000本を植えました。パイアは半年後から一年中果実が実ります（2012年12月10日）。

日本アイアイ・ファンド (NAF) 2019年度の活動報告

なんだか、あれこれ、たいへん！

2019年もいろいろなことが起こりました。

第一は、いろいろな人の輪でしょうか。アイアイ・ファンドメンバーの方の子どもで、マダガスカル生まれの男の子が2020年には大学生になり、「現地に行ってもいい」と。「でも、おっちゃん、サラリーほしい」とか。また、世界一周途上の36歳の山中青年が現地まで来て、いろいろな手伝いをしてくれた上に、アイアイを撮影しました。このアイアイに発信器の首輪がついて放置されていたことは、大きな問題で、これをはずすことが2020年の最初の課題です。

第二は、生き物の輪です。2019年末にはメンフクロウが親子で、アンタナナリヴ事務所の庭のラミーに泊まるようになったことです。ラミーは20年を経て、まだ花もつけず実もありませんが、ちやくちやくと大きくなっていることをフクロウが保証してくれました。

2015年以来本格化した公益社団法人国土緑化推進機構の「緑の募金公募事業」助成に45年連続で応募し、2015年度の3ヘクタール、2016年度の5ヘクタール、2017年度の5ヘクタール、2018年も5ヘクタール、そして2019年度にも5ヘクタールの植林をしました(23ヘクタール!)。この助成で、かなりの規模の植林ができ、地元貢献の手がかりをつかみました。2017年の「メトド・マンギラナ (Methode Mangirana ひかる植林法)」は、2019年の12月に襲った火災からも生き残り、カシューには果実が実りました。

2010年のアカシア植林地と隣接する2015年植林地にも火が入り、大きくなっていたアカシアだけがかろうじて生き残りしましたが、ラミーは全滅したことも報告しなくてはなりません。

第三は、果樹園と苗畑の創設です。カシューとパパイヤを合計2000本、保護区内にも植えましたが、集落周辺の三地域では合計1ヘクタール以上となり、なんだか果樹園を作っている感じです。地元ではカシューの結実を見ているので、半年後に結実するパパイヤに期待が高まっています。

苗畑は現地とアンタナナリヴの両方に整備し、常時5,000~10,000本の苗を生産することを目指しています。今年は2018年に始めた植林地防護のハナキリンより簡単に入手できるブーゲンビリアの苗の育成し、160本を植えましたが、2020年は2000本が目標です。

ラミーやアカシアなどの大型苗の育成も進んでいますが、今年はそれに加えてラフィア、サッチャナヤシ、そして竹の苗育成に一步踏み出しました。

そして、性懲りもなく、まだ夢を見ているのです。バオバブは火災にも強く、2.3キロメートルの植林地の柵に沿って1,000本の並木を構想しています。このバオバブの列の下に、2,000本のブーゲンビリアとハナキリンの華々しい垣根が、もう手の届くところに、なんてね。

柵用の丸太は、今年は2010年植林のアカシアから確保できました。調査基地の木々も来年は柵用に利用できますし、基地の保安整備も一步一步進めています。

2020年には、また新しい人々がアンジアマンギラナーナに登場するでしょう。

2019年活動報告

1月9日、正木さんにマダガスカル映像を渡し、編集をお願いする。

1月14日、本郷三丁目『麦』で「福田喜八郎を偲ぶ会」で、米倉さんの発案でアイアイ・ファンデへの寄付を徴収。大金だった。『犬』原稿まだまだ。

1月20日、文京区後楽園近くの中央大学工学部キャンパスあたりで旋回しつついていた中型の鳥（たぶんヒヨドリ）に猛禽（ハヤブサかオオタカ）が突っこみ、たちまち体の下に小型の鳥をつかんで丘の上の木立にとまった。猛禽の襲撃現場を見たのは、1980年代の正月にモズがスズメを襲ったのを見て以来のことだった。

1月24日、「ソロモンの指輪」は失われたのだ、と『犬』原稿。

1月29日、福音館の編集者と『シファカと九つの森』うちあわせ。

1月31日、遠藤さん、3月17日のアイアイ・ファンデ総会の会議室予約。

2月1日、『犬』第一次原稿完成。

2月5日、正木さん、マダガスカル報告映像の仮編集、打ち合わせ。

2月は北海道、青森と天然記念物の取材続き。零下27°Cを体感。

2月18日、『犬』原稿、第五章はただの混沌だと分かる。「ひたすら必死である」と。

2月25日、アイアイ・ファンデ会計、米倉さんと。

2月28日、アイアイ・ファンデ年次報告と寄付者への領収書完成。

3月3日、アイアイ・ファンデ年次報告発送。

3月15日、遠藤さんに『犬』原稿中の分類分野を見てもらう。午後から会計監査、米倉さん、山吉さん。

3月17日、アイアイ・ファンデ総会

3月27日、動物園協会報告会。

3月28日、『犬』できたかと講談社から督促。島は『犬』にかかりきりなので、赤松さんが緑化協会への助成金申請を出した。4月10日、「まだ終わらない。毎日午後には疲れ果てて気絶しては起きる、というくり返しである」と。

5月9日、緑化機構からの疑問点へ回答、赤松さんと。

5月16日、緑化機構への年次報告書作成。赤松さんに送り、点検のうえ送付。

5月25日、プリンター壊れる。年次報告が打ち出せない。新品は、古いOSでは使えず、結局、プリンターの修理を頼む。

5月29日、『魚食の人類史』は、ちょっと收拾つかないほど広がった。「論文の魚名を調べあげるという作業で参った」とも。

6月3日、福音館北森さんが『9つの森とシファカたち』の絵の最終版を持ってきた。すばらしいでき！さすがに画家だと。後書きになる原稿を書く。題は「夢」。「マダガスカルはボクの夢なんだ」と私に言ったのは、ピエール・バルーだった。

「この絵本を見た皆さんは『すごい！こんな動物たちにあってみたい、こんなところに行ってみたい』と感じてくれると信じています。だってすてきな絵ですからね。・・・私たちが20年かけても守り育ててきた森も、その森の生き物たちもみんなで皆さんがやってくるのを待っています。ぜひ、来てくださいね」

6月5日、福井県大野市のイトヨ（トゲ魚）の取材で、川の中に入って水草を食べている野生のサルの群れに出会う。ひさしぶりのニホンザルだった。（え？写真みたいですか？）



6月14日、千葉県天津小湊の鯛ノ浦の取材。GOPROを初めて使った。海中で沸き立つような魚の姿がよく見える。マダガスカルで使うことを決意。

写真：九頭竜川上流のニホンザルの群れ

6月28日、『魚食の人類史』原稿完成。アウトロックが壊れた。しかも、直らない。

6月30日、寄付者名簿と送付先リストの作成。緑化機構から助成が決定通知。

7月10日、『ヒト、犬に会う 言葉の論理の始原へ』（講談社選書メチエ）刊行。NHK

新書『魚食の人類史』来春刊行予定。

7月14日、理事の清水さんの長女清水美弥子さんのダンス発表会（都筑区のダンス団体合同）。日本アイアイ・ファンも広告を出し、支援している。

8月28日、大阪での下関西高関西支部25周年記念講演原稿と募金箱の製作。

8月29日六本木ヒルズの33階にあるJウェーブの録音で小黑さんと話

「『犬』本を読んでいるとずいぶん研究者が出てきますが、何人くらいですか？100人？」と聞くから、「犬本の前の『ヒトー異端のサル』で文献を集めて3,776に達したが、それから又少々ふえていますね」と答える。文献収集システムのおかげである。

9月1日、大阪にて下関西高「旭陵同窓会関西支部」25周年記念講演会「霊長類学的世界史観察、あるいはアイアイから見た日本人の未来」。募金も集める。

9月13日金曜日仏滅 島 泰三 出版記念会 於：講談社26階

45名の方々が参加して、楽しい集まりになった。なにより26階からの東京北半分の夜景が美しい。詳細はホームページで。

9月20日、4テラHDへ映像データのとりこみなど18時間。

9月23日、正木さん、出版記念会の映像編集完。

10月1日、ロシア映画『タンクソルジャー』の主人公二人が、長い木の枝を持って湿地帯を抜けようとしている風景を、妻に説明する。

「ジャマイカには沼の中に水中林があり、前を歩いていたガイドが突然消えるんだ。根の上を歩くんだが、根が広がっていない所があちこちにあって、そこに落ちこむ。マダガスカルでも流砂があって、川は浅いように見えても緩い砂の底に足をつっこむとそのまま沈んでしまう。だから、湿地を渡る時は長い棒で前方をさぐりながら歩くんだ」、「そういうことも、本で書いて！」うーん。

10月2日、池澤夏樹さんは毎日新聞での『犬』本の書評に続いて、朝日新聞文芸欄の「はじまりとおわりと ヒトとイヌ幻想力ゆえに落ちゆく人間」で、「まずは必読の本だ」と書いてくれた。姉は朝日新聞を購読しているので、これを知って「なんでこんなによく書いてくれるわけ、知りあい？それとも、なんかあげた？」と、83歳女子。

10月17日、講談社経由で青森大学学長だった栗原堅三さんからの手紙。「甘い、塩辛い、酸っぱい、苦い」の四味（渋い、辛子辛い痛覚）のほか「うま味」があることを世界に認めさせた味覚の研究者である。「イヌの味覚は、ネズミよりもはるかに人間の味覚に近いが、なぜだろうと思ってきたが、それが氷解した」と。

10月29日、遠藤さんから「動物と人の文化誌学会」入会を奨められ、入会。

11月7日、『魚食の人類史』原稿完。パパイヤ苗1000本の収集を指示。

11月9日、『ディカバリー・チャンネル』でのエド・スタフォードによる『サバイバル十則』に、はまった。なにしろ、無人島生活は小学生の頃からの憧れであり、漂流は十代後半からの夢だった。「人生そのものが漂流じゃないか」と言わないでほしい。そして、「今さらサバイバルかよ」とも言わないでほしい。実は、マダガスカルでの生活では、この十則が実際に役に立つのだから。

11月16日、パパイヤの苗は手付け金を払って確保したとの連絡。マダガスカルに行く前に一仕事が終わったのは、これが初めてである。

11月20日、赤松さんと小林さんあてにメルアドの整理。ゴープロは高いので、アクションカメラなる小型カメラを購入。マダガスカル用。使い道はこれから考える。

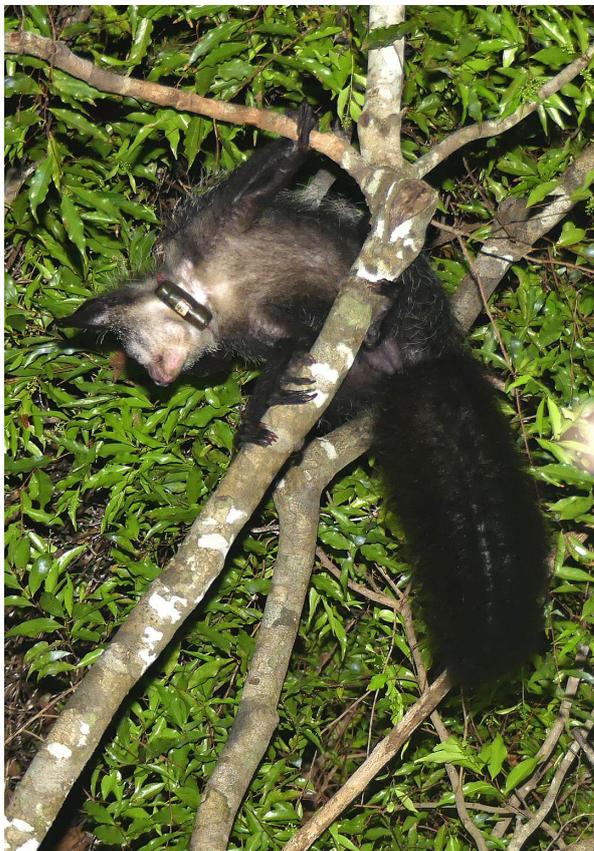
11月25日～27日、鹿児島島出水取材。一万五千羽のツルの越冬地は圧倒的だった。帰りに水俣の資料館に行く。出水と水俣はおなじ八代海の沿岸である。

かつて「魚湧く海」と呼ばれるほどの豊かの海は、永久に戻ってこない。少なくともこのホモ・サピエンスが活着している限りは。その絶望の海なのだ。

11月29日～12月20日、マダガスカル往復。

12月4日、アンタナナリヴ事務所での苗畑は、昼間に水が出ないので、午前5時から仕事をしているとのこと。世界一周中の山中さん、バオバブ並木観光から戻り、合流。アジャさん、ブルノーさん、現地へ出発。

12月5日、午前6時出発。アンジアマングラーナ午後7時着。



の対策を立案中。

「帰りはタクシーブルースで、ひとりで帰ること」と言っても「それも楽しみです」と答える人。ファナンブタナ学園の子どもたちが集まって、基地前の学園の敷地に植樹するというので、翌日から作業が始まりました。山中さんは子どもたちの人気者となり、そのまわりにはいつもたくさん子どもたちが群がっていました。

そして、ブルノーと現地森林監視員とともにいったアナラランベ(保護区内キャンプ地)では、二晩目にアイアイに遭遇。「奇跡でした!」と。ブルノーは「これは子ども。上流の河原には二頭の夫婦と見られるアイアイの足跡があった」と。

この全身写真では子どものアイアイの特徴である耳の大きさが目立たないが、あきらかに子どもで、ブルノーは「成長につれて首がしまるのは明かで、早急にとってやらないと死ぬだろう」と。そ

前線苦戦日誌

「2019年12月8日、午前5時55分、火はマナサムディ山登り道から植林地東南端を焼



いていた。(昨日見た植林地の悲惨な状態をあれこれ考え) **ブルノーとアジャの作業** 1 クラニのパパイヤ・カシュー植林用賃金は、こちらから直接払う形をとらないこと(半ば私有地なので)、2 竹プロジェクト。見本を写真で見せる。竹苗用のサンプルを収集に行かせる。500本の苗生産、3 ラフィア・プロジェクト。果実収集と苗畑づくり1000個、4 アカシア種子収集10、000個、5 サッチャナヤシ・プロジェクト。



1000個、植林地現地での直植えと苗づくり。6 ラミー種子収集。アイアイ食い痕のものできるかぎり種子のみ1000個、7 バオバブ種子収集、1000個、8 マンゴー苗収集500本、9 ブーゲンビリア収集、アンツイで苗用枝購入、5000アリで。10 動物データをPCへ保管」(フィールド・ノートより)

左：クラニの苗畑(一時保管場所として)

下：ラミーの成長各段階



左は発芽したばかりのラミー、中央は1年～2年もの、そして右写真のバナナのむこうに立っているのは2006年に発芽したラミーです。ここはクラニの苗畑のとなりで、川沿いにあり、放置したままのラミーが高さ10メートル、直径は20センチをこえるものもありました。混み合っているなので、細い幹のラミーは伐って苗畑の柵に使ってよい、ということにしました。

ラフィア・プロジェクト開始



「山中君、これくらいが担げないのか?」と、ジジイが 36 歳に言う。ラフィアの壮大な結実にであい、ラフィア苗を確保することに。これはただのひと房にすぎない。3 本の木が結実していたので、この十倍になる。果実を処理して川辺と水源にも植えて植林の助けとしました。

竹プロジェクト発進



竹の苗は水平に植える。空中でタケノコが出てくるマダガスカル竹ならではの技術である。

サッチャナヤシ・プロジェクト発動！



サッチャナヤシは種子を拾いあつめればよい。それを大地に直に埋めていくだけで、ヤシ林ができる。火にも強い。はじめからそうすればよかったなあ。

2019年12月17日～19日のメンフクロウ (Common barn owl *Tyto alba*) の一家



上：たぶん、メス

下：たぶん、オス



上：夕暮れ時、
飛び立つ前の会
話をしている夫
婦 (たぶん)

左：たぶん、こ
ども。



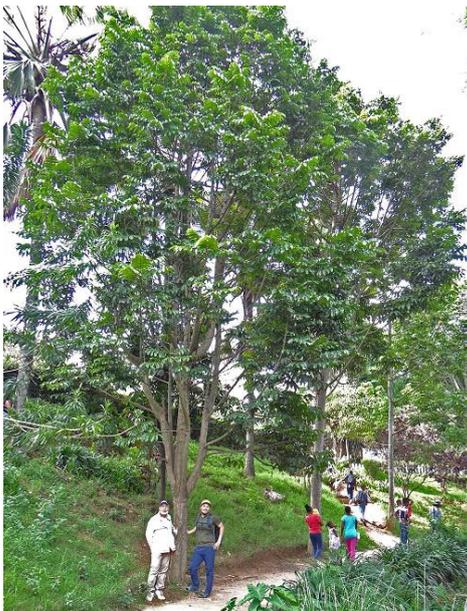
ラミーの木が大きくなることで、これほどの生き物の住み家となります。それが植林の結果、大きな森になったら、アイアイばかりでなく、フクロウやその他の生き物たちの大切な生活の場となることが証明されました。

12月15日、アンジアマンギラーナでは、いつも午前4時半には起きてその日の仕事をメモし、現地を回って夕方戻って節子に電話すると、それで一日が終わった。写真、映像をコンピューターに保存するだけで気力が尽きた。

アンタナナリヴでは、この疲れ果てたひとり暮らしを支えてくれたのは、庭のメンフクロウたちだった。

12月16日、アジャさんの報告ではマナサムディへ仕事で出た間に、基地に窓をこじ開けて泥棒が入り、アジャのリュックが開けられ、衣類全部と懐中電灯が2個が盗まれていたという。彼が大金を持っているのを知っているからだ、と。今後は基地で寝るときは、誰かひとり付き添ってもらおうという。

私はやはり、この国ではセキュリティー第一に考え、壊そうとしても壊せない、という基地を作るべきだと思う。それが基地のまわりの塀であり、今回の鉄の扉だが、いよいよ窓も鉄枠で作ることにしよう。



チンバザザ動植物公園のラミーはこんな大きさになりました。事務所のラミーはもっと大きいので、フクロウが泊まりにするはずです。

この材木とサッチャナヤシの葉とラフィアの葉軸があれば、家ができます。基地の食堂の屋根直しは二日で完成でした。



12月21日、『アステイオン』（サントリー財団）の連載「世界史の変容・序説 『まなざし』の起源」で、三浦雅士さんが『犬』本を紹介。

『ヒト、犬に会う』は好著と言うべきである。・・・島はしかも、最終的にはほとんど問答無用の勢いで、人類が犬に出会って友となったのは東南アジア大陸部においてであったと断言している。南下する犬と北上する人類がそこで出会ったというのだ。ほとんど詩人の直観である。」

この1970年代に雑誌『ユリイカ』編集長だった人の評は、何かとんでもない幸運にでも出会ったような、とまどいと爆発する喜びを感じた。

12月25日、会計担当米倉さんとクリスマス会。マダガスカル映像や写真の整理は、年を越した。

2020年1月10日、マダガスカルからの報告では、1000本と予定して200本から始めたブーゲンビリアの挿し木は90%成功し、アカシアは50%。しかし、カエンボクは0.1%だったと。

2020年2月16日日曜日、午後2時より日本アイアイ・ファンド活動報告会（赤門から入って右奥の東大総合研究博物館の会議室です。耐震補強中で入りにくいので、博物館正面入り口前に集合、いっしょに入ります）、午後5時から懇親会（本郷三丁目『麦』、あるいは当日変更があるかも）です。お忘れなく。



カシューの果実（上と左の赤丸内）

（2019年12月7日）

2016年度の「光植林地」

のカシューナッツは、一個だけですが、結実していました。現地指導者のアジャさんはカシュー植林を推進してきたことに「自信ができました」と。



看板を二枚とも掲げた2019年度の植林作業員たち。中央にアンジアマングラーナ婦人会の面々が陣取っています（2019年12月10日）。写真で分かるように、すでに黒雲が出ていますが、このあと、豪雨となりました。

牛車も人も雨の中

（左）



この雨の中、植林は続き、森にラミーの種子を集めに行った森林監視人のティラは、大きな袋にいっぱい果実を背負って帰ってきました。（人にも牛にも過酷な植林現場から：2019年12月10日）。



写真の手前右のコンクリートが境界標識 No.10。左が 2018 年植林看板。背景は 2010 年植樹のアカシア。上は 2018 年 12 月、下は同じ場所の 2019 年 12 月の状態。



保護区南端の林は繰り返して火災にさらされてきました。しかし、このアカシアの植林地のように大きくなった木々は、乾燥した草に火がついても生き残ることができます。防火帯を作る作業を年に 2 回行うことができれば、それが実現できるのですが。

2019 年日本アイアイ・ファンド活動報告会は 2020 年 2 月 16 日（日曜日）

午後 2 時から、東京大学総合研究博物館玄関前集合です。

日本アイアイ・ファンド 代表 島 泰三

〒113・0033 東京都文京区本郷 5-3-12

電話 03-3813-6578